

## 子育ての正解とは？

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 理事長 田中啓昭

### あふれかえる情報

何かを考える時に、選択肢がないと自由がききません。それはそこに自分の思いを反映する余地が存在しないからです。一方、選択肢が多すぎても困ってしまいます。多すぎること、どれにしようかと迷ってしまい、迷っているうちに何が何か訳がわからなくなってしまうからです。これって、子育てにおいても同じことがいえるのではないのでしょうか？

昔は、選択肢(情報)が不足していました。でも、今はむしろ選択肢が多すぎるように感じます。

じます。だから育児雑誌などのあふれかえる情報を読みすぎるあまり、それらに翻弄されている人が多いように見受けられます。情報過多に陥ってしまつて、選択できない状態にあるといえますね。つまり答えを見つけれなくなっているのです。

### 自分軸を見つけよう

そもそも子育ては、「自分が育てられたようにしか、わが子を育てることができない」と開き直るぐらいに肩の力を抜くほうが案外うまくいくのだと、私は思っています。



育てられたようにやってみる

子育てにはいろいろな方法や考え方があり、これが「正解」と断言できるものはありません。だからこそ、子育て情報に埋もれ、選択できない状態で、まるでアリ地獄に落ちてしまったアリのようにもがき続

### 子育てに正解はない！

子育てをしていく中で、「私の子育てって間違っていない？」と不安になることもあるかもしれません。そんな時は、「子育てに正解はない！」という言葉思い起こしてください。あなたが探している答えは育児書の中ではなく、「子どもと共に親も成長しながら見つけていくもの。子どもと共に育んでいくもの」なのです。つまり、目の前の子どもとしっかりと向き合うことが、ほとんどの問題を自然に解決していく糸口になるのです。

私たち親は、「子ども」という工業製品を作っているわけではありません。だから、プロセスなど人それぞれ違っていてよいのです。だから完璧な子育てマニュアルなど存在しないのです。だって、子育てに正解はないのですから。

子どもと向き合い、共に成長しよう



けるのではなく、少しでも早くブレない自分軸(子育て観)を見つけ出す必要があるのです。そんなことをいっても、「自分軸なんて、どうやって見つけたらいいんだろう…」と考えると、どうしても迷ってしまいますね。そんなに難しく考える必要はありません。まずは、あなたを育ててくれた両親に、自分をどんなふう育てたのか、何をポイントに子育てをしたのか聞いてみるのはいかがでしょうか？ ついでに配偶者を育てた義父母にもいろいろと

聞いてみるのも面白いかもしれませんね。すると、「なるほど、こう育てられたから、自分はこんなふうになったんだ。夫(妻)があんなふうになったんだ」と腑に落ちることでしょう。そして、そこで初めて、あなたはわが子にどんな大人になつてほしいのか、また、どんなふう育ててほしいのかと考えるみてください。

次に自分や配偶者の両親から聞いた子育ての方法をヒントに、漠然としている想いや考えをまずは箇条書きにしてみよう。そうすると、こんなにも？と、びっくりするぐらいたくさんの思いが出てくることでしょう。それらを整理すると、おぼろげながら自分軸(子育て観)が浮かび上がってきます。それをより確かなものにするため、初めて育児書や育児雑誌などを読んで少し知識(情報)を入れてみるとよいと思います。